

金融もこなす事業会社へ

SMFL ③

挑戦する企業

3Rをけん引

「環境問題の枠内に収まるものでなく、企業や社会を巻き込んだ大変革だ」。三井住友ファイナンス&リース(SMFL)専務執行役員の関口栄一は使用済みの製品を再利用、再資源化することで廃棄物を最小化するサーキュラーエコノミー(循環経済)について、こんな見方を示す。

グループ力で循環経済実現

30年めど100億円ビジネスに

循環経済の実現は環境制約に加えて、資源枯渇や地政学リスクの高まりといった資源制約の面からも重要となる。市場の拡大も見込まれており、日本政府は国内の循環経済関連ビジネスを2030年に現状比1・6倍超の80兆円以上に拡大させる方針だ。

SMFLはグループ力を生かし、30年までに独自の循環経済を構築する目標を掲げている。19年に設備・プラント処理元に設けのSMART(スマ

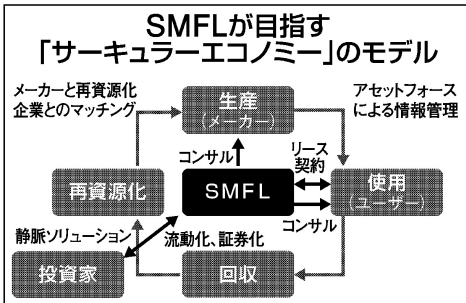
関口は循環経済について「社会への大きな貢献」とも協力して取り組みを加速させる方針だ。

0年に現状比1・6倍超の80兆円以上に拡大させる方針だ。

リース業は多くのモノを扱い「3R(リデュース、リユース、リサイクル)を長年けん引してきた」(SMFL社長の橋)

「SMFL社長の橋」だけに、循環経済のテーマに選定。三井住友モノの管理、静脈ソリューション

「サーキュラーエコノミー」のモデル



「サーキュラーエコノミー」のモデル

「サーキュラーエコノミー」のモデル